

千歳市都市経営会議からの提言書

～人口増加が続く活気あふれるまちづくりに向けて～

令和元年10月

千歳市都市経営会議

この提言書は、私たちが住む千歳市が、これからもっと“住み良く、魅力的なまち”になるにはどのようなことが必要なのかを、24名の委員で未来の姿や夢も語りあいながらまとめたものです。

「提言」には、市が主体となるものばかりではなく、国や北海道に要望するもの、市民や事業者との連携や協働によって進めていくことが期待されるものも示しています。

また、「取組のアイデア」の中には、すでに取組が始まっているものや、多くの課題があり、すぐに取り組むことが難しいもののほか、実施や実現が難しいものもあると思いますが、いずれも千歳市を“よりよいまち”とするため、9か月間にわたり私たち市民が真剣に考えた率直な思いを込めた内容となっています。

千歳市第7期総合計画の策定にあたり、参考にしていただくことを期待しています。

令和元年 10 月

千歳市都市経営会議

も く じ

1. はじめに.....	3
2. 提 言.....	6
提言 1 「観る・食べる・泊まる」ことを身近にし、通過点ではなく、 “楽しめるまち・千歳”をめざしましょう	6
提言 2 「作る」だけでなく、情報発信をして、 「食す・楽しむ・学ぶ」ことのできる農林業にしましょう	8
提言 3 地の利を生かし、多様な企業を誘致することに努め、同時に、 産業の種をまいて、未来の企業づくりをめざしましょう	10
提言 4 胆振東部地震の経験を生かした、 より災害に強いまちづくりをめざしましょう	12
提言 5 人口増加が続く長都駅周辺の安全確保や 交通網の整備を推進しましょう	14
提言 6 恵まれた自然環境の保全に引き続き取り組み、 子どもや孫の代まで残しましょう	16
提言 7 市街地の立地や既存の施設などを生かし、観光客も市民も楽しめ、 にぎわう“まちなか”にしましょう	18
提言 8 インフラや交通網も含め居住環境において、住民の 安心・安全、快適性、利便性、公平性の向上をめざしましょう	20
提言 9 子どもから大人まで、福祉教育に接する機会を増やし、 豊かな人間性を育みましょう	22
提言 10 市民一人一人の知識、経験、特性を生かし、 地域に貢献できる活動を促し、広げていきましょう	23
提言 11 市民同士がつながり、必要な情報が必要な人に 届くようにしましょう	24
3. 資料編.....	26

1.はじめに

<諮問テーマ>

私たちが目指すまちづくり～これからのまちづくりの課題と目標～

<会議の進め方>

会議は、24名の委員が「産業」「安全安心・環境」「都市づくり」「福祉・教育」の4つの部会に分かれ、それぞれの部会が3つのテーマを設定し、「①現状の分析」「②勉強会・取組の検討」「③提言のまとめ」を1セットとして進め、全14回の会議を実施しました。

<提言書の構成>

提言書は、テーマごとの「提言」、提言に向けた「基本的な考え方」、会議で提案された「取組のアイデア」と千歳市の現状を分析した「SWOT分析※表」の4つで構成されています。

また、提言の文末は、市だけではなく、市民や事業者にも呼びかける気持ちを込めて、「～しましょう」としました。

※目標を達成するための手段を検討するにあたって、置かれている状況などを「強み(Strengths)」「弱み(Weaknesses)」「機会(Opportunities)」「脅威(Threats)」の4つのカテゴリーで要因分析する方法です。

提言

基本的な考え方

取組のアイデア

SWOT分析表

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> 強み・意の気風や歴史が深い 立地があり、空港利には富しと施設も多い ホテルが多くある 農業立地、観光リゾート化、多様な産業や施設が整っている 自然環境が豊か、水質が良い、気候温暖な多い
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> 1日10時間以上労働の従業員が多い 若年層の減少が顕著 空港立地は、航空立地のため、土地の利便性に制限がある 産業があること（航空機）による高層ビル建設がある
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> 多様な立地による多様な産業化、世界へ発信できる インフラ整備が進んでいる アットホームなイメージが幅広い層から支持される
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> 本道各市には立地するインフラ整備があり、競争力に10月以上あると見られ、千歳市は過渡期にある 行政単位が「国体」から「国体」へ移行するなか、これらで国体単位が減少し、地方では、過渡期が長く続く可能性がある

＜各部会が選んだテーマと選んだ理由＞

部会	テーマ	選んだ理由
産業部会	①観光発展のために	空港利用客を主とする観光客を取り込み、「通過するまち」から「滞在するまち」に変えていく必要があると考えるため。
	②人・生活を支える千歳の農林業	食の基本となる農業を持続・発展させていくことは基幹産業として大切であること。また、千歳市の面積の半分は山林であり、自然を維持するためにも、今後、林業が大切な産業になると考えるため。
	③企業誘致・産業発展に向けて	企業誘致はもちろんのこと、自ら産業を育てることで、人口増加の好循環をつくるため。
安全安心・環境部会	①防災・災害に強いまちづくり	昨年の胆振東部地震を経験し、災害に対する備えと地域の結びつきの大切さを学んだ。その経験を生かし、より災害に強いまちづくりを進めていくため。
	②長都駅周辺の防犯と交通安全に対する取組強化	長都駅周辺は人口成長地域であるが、長都駅は長年無人状態であり、施設の老朽化も進んでいるほか、付近に交番もないなど、安全面に不安がある。 また、令和2年度からのJR千歳線における快速列車の増便により、踏切の遮断時間が長くなり、長都駅周辺の踏切付近において交通渋滞が増えることが予測される。 このようなことから、長都駅周辺の防犯体制、交通網の見直しを考えることが必要と考えるため。
	③千歳市の自然環境の保全について	千歳市の安く、安全でおいしい水を守り、次世代に継承していくことが重要と考えるため。 千歳市の魅力のひとつとなっている「北海道らしい、すばらしい景観」を保全するため。
都市づくり部会	①都市基盤の整備	都市づくりの重要な柱であり、基本となるため。
	②中心市街地の活性化	まちの活力の源泉となる中心市街地の活性化は、千歳市の長年の課題であり、市民の関心も高いため。
	③住宅地対策	市民が安全で安心して暮らし続けることができるよう、住宅地を含む住環境全体について考える必要があるため。
福祉・教育部会	①人材の育成・活用	お互いの知識や経験を伝えていくことにより、人が育ち合い、住み良い千歳になることを願うため。
	②連携	とても広い分野である福祉、教育にたずさわる人、団体、組織が手を取り合うことや、人の出入りが多い千歳の特性を活かし、つながることの大切さを市民に浸透させるため。
	③情報発信	必要な情報を効果的に伝え、市民同士がつながることで、災害時はもちろん、普段の生活においても、高齢者や障がい者の方々を含む全ての市民にとって、より生活しやすいまちになると考えるため。

※都市づくり部会は「①都市基盤の整備」「②中心市街地の活性化」「③住宅地対策」の3つのテーマについて議論し、2つの提言にまとめました。

<開催経過>

開催月日	回	内 容	
2月17日	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・第6期総合計画の概要と取組状況の確認 ・総合計画における住民参加の手法とその成果の確認 ・グループワーク「今後、どのように会議を進めていきたいか」 ・座長及び副座長の選定 	
2月27日	市長より依頼状の交付、諮問		
	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳市の現状と課題の確認 ・グループワーク 「今後の会議の進め方①」 『千歳市の将来のあり方』について思いを伝えよう！ 「今後話し合うテーマなど」について 	
3月27日	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 「今後の会議の進め方②」 「話し合いのテーマ、会議の成果など」について ・部会のメンバー決定 	
4月24日	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する会議 ①現状の分析（テーマについて思うことを付せん書き出し、SWOT分析表で分類） ②勉強会・取組の検討（疑問点を学ぶ場として市の関係職員を講師とした勉強会を開催し、取組を検討） ③提言のまとめ <p>※1つのテーマにつき①から③を1セットとし、3セット実施 ※1つのテーマが終わるごとに、全体で情報共有</p>	
5月12日	第4回		
5月22日	第5回		
6月9日	第6回		
6月20日	第7回		
7月7日	第8回		
7月24日	第9回		
8月28日	第10回		
9月8日	第11回		
9月25日	第12回		
10月2日	第13回		・「提言書案」の検討・調整
10月20日	第14回		・「提言書案」の確認・調整
10月30日	市長に提言書を提出		

2.提 言

提言 1

**「観る・食べる・泊まる」ことを身近にし、
通過点ではなく“楽しめるまち・千歳”をめざしましょう**

《基本的な考え方1》

千歳市の魅力を効果的に発信し、市内への誘客と滞在を促しましょう。

《取組のアイデア》

- ・千歳JAL国際マラソン、ちとせホルメンコーレンマーチなどイベントを活用した魅力発信
- ・道内居住者へのPR（札幌駅・小樽駅・旭川駅・ススキノ周辺へのパンフレット配布）
- ・観光地等への公共Wi-Fiの拡充をより一層推進する（青葉公園など）
- ・キャッシュレス化の対応・推進（キャッシュレス化推進先駆けのまちとしてアピール）
- ・レンタカーを利用する旅行者の“すきま時間”におすすめのマップづくり（サケのふるさと千歳水族館コース、名水ふれあい公園・支笏湖コース、レラコースなど3つぐらいに絞って提案）
- ・空港に千歳市のアンテナショップを設けて、千歳産使用の飲食店を知らせ、ファンを増やしていく
- ・海外（特に台湾やASEAN諸国）の空港にポスターなど千歳をPRできるものを掲示、設置する

《基本的な考え方2》

今ある観光資源をもっと楽しみやすく、使いやすくしましょう。

《取組のアイデア》

- ・飛行機を見ることができビュースポット※づくり
- ・青葉公園を活用した気軽に参加できるスポーツイベントの開催
- ・サイクリングロードを整備し（周辺都市のサイクリングロードとの1本化、支笏湖周遊サイクリングロードの新設など）、自転車イベントを開催する
- ・不要になった自転車を利用したレンタサイクルの設置（千歳駅前）

※成田市さくらの山：滑走路と第1ターミナルが目の前に広がる公園で、市内随一の飛行機ビュースポットです。



成田市観光協会ホームページより

《基本的な考え方3》

多様なニーズをふまえ、人の集まるスポットを増やしましょう。

《取組のアイデア》

- ・タウンプラザに、昭和の遊びが体験できる場所をつくる（輪投げ、竹馬、こままわし、だるま落としなど）
- ・大量の観光客を呼び込むため、テーマパーク（キッザニアなど）を誘致する
- ・千歳駅周辺等に、電気設備を備えたキャンピングカーのための停泊所をつくる
- ・既存キャンプ場に入浴施設（シャワー室）を設置する
- ・春夏秋冬を通した花の名所づくり（冬も温室で花を楽しむことができるなど）

現状の分析 （SWOT分析表）

S/強み	<ul style="list-style-type: none">・ 陸・海・空の交通の便がいい・ 空港があり、空港内には楽しむ施設も多い・ ホテルが多くある・ 青葉公園、サイクリングロードなど運動する環境が整っている・ 支笏湖があり、水質が良い、田園風景も多い
W/弱み	<ul style="list-style-type: none">・ 1日遊べるような観光の目玉がない・ 有名な食べ物がない・ 支笏湖地区は、国立公園のため、土地の利活用に制限がある・ 空港があること（航空法）による高さ制限がある
O/機会	<ul style="list-style-type: none">・ SNS活用による情報発信で、世界へ発信できる・ インバウンド客が増加している・ アウトドアレジャーが盛んな情勢がある
T/脅威	<ul style="list-style-type: none">・ 北広島市には三井アウトレットモールがあり、苫小牧市にIRができるとなると、千歳市は通過される・ 行動単位が「団体」から「個人」へ移行するなか、これまで団体観光の滞在が多い地域では、通過型が進む恐れがある

提言 2

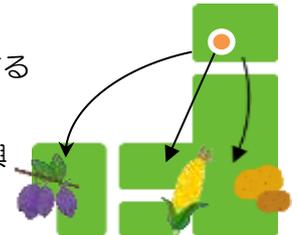
「作る」だけではなく、情報発信をして、
「食す・楽しむ・学ぶ」ことのできる農林業にしましょう

《基本的な考え方1》

千歳の農業・林業をイメージづけるための情報を、もっともっと広めましょう。

《取組のアイデア》

- ・生產品目（農地）から出荷先（流通先）をマップにして周知する
- ・ロゴマークを作成するなどして、千歳のグリーンツーリズムをアピールする
- ・生産者の“見える化”“ブランド化”を推進し、市内外に発信・拡散する
- ・林業を広めるため、チェーンソーアート等をイベント化する（若い人が興味を持つようなお祭りを開催するなど）



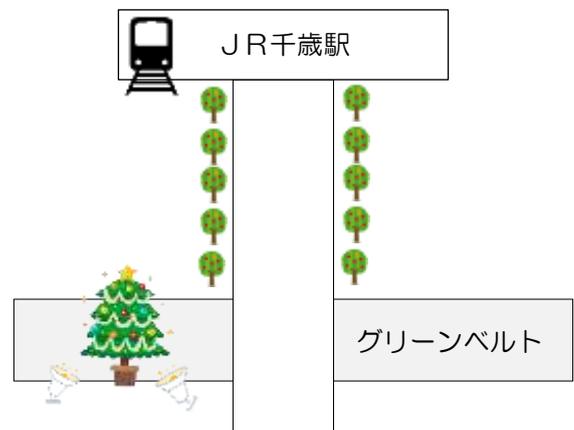
流通先とのつながりマップのイメージ

《基本的な考え方2》

農業・林業を観光資源としてとらえ、「食す・楽しむ・学ぶ」ことができるように発展させましょう。

《取組のアイデア》

- ・千歳産の卵やブランド豚肉を利用した“食の祭典”を開催し、楽しんでもらう
- ・生産者の協力で、菜の花、ひまわりなど“フラワーマップ”で観光客を呼び込む
- ・市営牧場等に「農林学習館」を併設した宿泊施設を用意し、体験してもらおう
- ・防風林を利用し、イルミネーション等のイベントを開催する
- ・地元企業の協力で駅からグリーンベルトに導く並木と、グリーンベルトにシンボルとなる“もみの木”を設置し「もみの木ロード」を作る



もみの木ロードのイメージ

《基本的な考え方3》

千歳市内で「作る」から「造る」、そして「食べる」まで楽しめるように
しましょう。

《取組のアイデア》

- ・千歳産の農産物を加工する企業を誘致することで、市内で加工・消費するとともに、市外へ広めていく
- ・千歳産を使用する飲食店にシールやのぼりを作って配布し、応援してもらう

現状の分析 (SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none">・地理的に流通性が良く、人も集まりやすい・農業地帯があるだけでなく、道内 No.1 の鶏卵生産のまち・千歳産のブランド豚肉がある・市営牧場がある・まちなかに防風林があり、自然が多い
W/弱み	<ul style="list-style-type: none">・千歳に“農業”のイメージがなく、千歳産としての生産物が目立っていない・防風林に怖いイメージがあり、人が寄りにくい
O/機会	<ul style="list-style-type: none">・農業の機械化が進むことで、大規模化が進む社会・私有林が多くあり、活用できる可能性がある・家族経営から法人経営へと、法人化が進んでいる
T/脅威	<ul style="list-style-type: none">・世界的な温暖化による環境変化を受ける

提言 3

地の利を生かし、多様な企業を誘致することに努め、同時に、産業の種をまいて、未来の企業づくりをめざしましょう

《基本的な考え方1》

千歳の強みを生かした企業誘致を進めるとともに、千歳の産業の特色づくりを進めましょう。

《取組のアイデア》

- ・札幌と比較すると冬は雪が少なく、夏は涼しい快適な環境をアピール
- ・国道、JRから「北海道の玄関口から世界へ飛躍」などのキャッチフレーズで、千歳の立地の良さをアピール
- ・医療、福祉に関連する産業を誘致し、北海道千歳リハビリテーション大学の卒業者が千歳で活躍できるところをつくる（メディカルバレー※のようなものをめざす）

※医療関連産業を集積した拠点のことです。九州では「東九州メディカルバレー構想特区」において、地域の特長である血液・血管関連の医療機器に加え、介護・福祉機器分野を含む医療関連産業を集積することで地域の活性化とアジアに貢献する医療産業拠点をめざしています（内閣府HPより）。

《基本的な考え方2》

千歳へ進出した企業とのパートナーシップを深めて産業活動を支えましょう。

《取組のアイデア》

- ・生活する上での「住みやすさ」を企業や従業員にアピール
- ・千歳へ進出した企業を支えるサプライチェーン※や、工場などを側方支援する設備製作や保全を行う企業を誘致する
- ・産学官で連携している取組を、より一層、市内外へアピールする
- ・新千歳空港インターチェンジ周辺を物流基地として、北海道のハブ都市をめざす

※サプライチェーンとは、日本語に訳すと「供給連鎖」です。原材料や部品の調達から製造・生産管理・販売・配送までを1つの連続した流れであると捉えた時の名称です。

《基本的な考え方3》

長期的な展望を持ちながら千歳独自の、自立性の高い産業を育てましょう。

《取組のアイデア》

- ・公立千歳科学技術大学の卒業者が千歳で活躍できる産業を育てる
- ・世界に認められたアニメ企業や学校の誘致
- ・外資企業や海外進出している国内企業へのアピール、誘致

現状の分析
(SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車産業が苫小牧、千歳に集中し、工業用地も十分にある ・空港や港が近く、輸送リードタイムが短い ・冬の除雪が行き届いており、冬でも道路環境が良い ・公立千歳科学技術大学がある ・札幌が近いので、人も集まりやすく、労働力は豊か ・多種多様な企業が立地している
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官の連携が知られていない ・工業系と比較するとソフト系企業が少ない ・本社機能が千歳には少ない ・企業のニーズ（道内企業との取引拡大など）に十分に答えられていない
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> ・気候や水質が良いという環境をめざして、立地を探している企業がいる ・企業誘致は雇用促進、税収増、地元商店の活性化につながる ・企業との連携が深まると「関係人口※」の拡大につながる <p style="text-align: center;">※関係人口とは、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。</p>
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や支社の撤退 ・国内企業が海外へ進出（工場設置など）

提言 4

胆振東部地震の経験を生かした、より災害に強いまちづくりをめざしましょう

《基本的な考え方1》

地域の災害対応能力を高めるために、町内会とともに防災活動の活性化に取り組みましょう。

《取組のアイデア》

- ・防災リーダーや自主防災組織の育成に一層取り組む
- ・自衛隊のまちである特徴を生かし、町内会の災害対応能力を高める
- ・自衛隊（OBを含む）の知識や経験を参考に、冬の停電時の防災マニュアルやハンドブックを作成する

《基本的な考え方2》

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」をもっと活用して、市民の防災に対する意識を強めましょう。

《取組のアイデア》

- ・「そなえーる」で開催されている講座に参加することで、多様化する防災に対する知識を深める（災害時の要配慮者への対応、女性トイレ、ペットの問題など）
- ・食のイベント等を「そなえーる」で開催し、多くの市民に「そなえーる」に来てもらうきっかけにする

《基本的な考え方3》

防災の観点から、公立千歳科学技術大学との連携を深めましょう。

《取組のアイデア》

- ・防災対策につながるアプリの開発など、技術的な連携を深める

《基本的な考え方4》

海外からの来訪者、居住者のことも考え、国際化に対応した防災対策を進めましょう。

《取組のアイデア》

- ・国際化が進む、観光客への対応策を推進する（アクトグラム※を使った防災標識の設置など）
- ・国際防災世界会議を誘致し、千歳市で開催する
- ・駅周辺にある公共Wi-Fiを停電時にも使えるように整備する

※静止画であるピクトグラム（非常口マークなど、絵で情報を伝える絵文字）に動きを加え、より情報が伝わりやすくしたものです。

現状の分析
(SWOT分析表)

<p>S/強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊があり、災害対応が早い ・充実した防災を学ぶことができる施設(千歳市防災学習交流センター「そなえーる」)がある ・公立化された千歳科学技術大学がある ・自主防災組織※1の設立や防災リーダー※2の認定という制度がある <div style="text-align: center;">  <p>そなえーる</p> </div> <p>※1：「自分たちの地域は自分たちで守る」と考えのもと自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行います。</p> <p>※2：地域や職場、自治体での災害対策活動の中心的役割を担うことができる知識と経験をもつ人のことです。千歳市では、防災に興味のある方、地域の防災リーダーを目指す方を対象に、災害発生の要因とその対処を学んでいただくとともに、地域の中で活かすことのできる知識を学んでいただくため、毎年市民防災講座を開催しています。</p>
<p>W/弱み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、日本語がわからない外国の方には避難場所がわかりづらい ・冬場の停電時の対応マニュアルがない
<p>O/機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進歩する科学技術は、防災への活用にも期待される
<p>T/脅威</p>	

提言 5

人口増加が続く長都駅周辺の安全確保や交通網の整備を推進しましょう

《基本的な考え方1》

人口が増加している長都駅周辺をより安全で安心できるエリアにしましょう。

《取組のアイデア》

- 長都駅周辺への交番の新規設置について、継続して粘り強く北海道に要望する
- 防犯灯の設置やLED化に対する補助を継続するとともに、街路灯のLED化や新規設置を進める
- 見守り隊の担い手を確保するため、より活動に参加しやすい方法を検討する

＜参考＞

※近年は、防犯カメラや無線通信機や各種センサーなどを装備した多機能街灯システム（スマート街灯）が開発されています。



NEC(左)とデンソー(右)のホームページより

《基本的な考え方2》

JR千歳線の増便により生じる影響をふまえ、長都駅周辺の交通環境を見直しましょう。

《取組のアイデア》

- JR千歳線が増便されることにより、踏切の遮断時間が長くなり、長都駅周辺の交通混雑が予測されるため、市内の全面的な鉄道の高架化など、長都駅周辺の混雑解消に向けた取組を検討する
- 利用客が増加している長都駅の安全性確保のため、駅の有人化やホームの改修をJR北海道に要望する

現状の分析
(S W O T 分析表)

S / 強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学時間帯に、見守り隊が活動している ・ 自衛隊があり、O Bの方がたくさん住んでいる ・ 防犯灯の設置やL E D化に対する補助制度が充実している
W / 弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の人口増加地域である長都駅周辺に交番がない ・ 活動している見守り隊の高齢化 ・ 長都駅周辺は子どもが多いが、見守り隊が少ない
O / 機会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客と千歳市の人口増加による、J R千歳線の乗客増加 ・ ボールパーク開場による、千歳線利用者の増加
T / 脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R千歳線の乗客増加により便が増発された場合の踏切周辺の混雑 ・ 長都駅ホームの幅が狭く、利用者の増加に伴い、危険な状況となっている

提言 6

恵まれた自然環境の保全に引き続き取り組み、 子どもや孫の代まで残しましょう

《基本的な考え方1》

千歳の“おいしい水”を来訪者にアピールするとともに、地域の活性化に生かしましょう。

《取組のアイデア》

- ・新千歳空港に到着された方々に、千歳市の“おいしい水”を「ウェルカムドリンク※」として、サーバー等で提供し、多くの人に名水と認知されるようアピールする
- ・千歳の“おいしい水”を生かし、日本酒をつくる酒造会社を誘致する

※富山きときと空港では、質・量ともにトップクラスの水環境をアピールするため、2階の中央ロビーで水道水でも美味しい「とやまの水」を飲むことができます。



富山きときと空港ホームページより

《基本的な考え方2》

千歳の“おいしい水”を育てている広大な自然環境を守り続けましょう。

《取組のアイデア》

- ・千歳の“おいしい水”を維持していくため、支笏湖周辺の国有林など自然環境の保全に努める

《基本的な考え方3》

北海道らしい景観を守りながら、千歳らしい景観づくりを進めましょう。

《取組のアイデア》

- ・清流 千歳川をアピールするため、市役所周辺を多自然川づくり基本指針※1に沿って、親水性の高い、自然石護岸に改修する
- ・ソーラーパネルの設置者に「北海道太陽電池・風力発電設備景観形成ガイドライン※2」の遵守を求める
- ・良好な景観を守るため、千歳市が「景観行政団体※3」となるよう取組を進める

※1：河川改修を行う際に、施工箇所に存在する植物や木、石などを利用したり、流速や川幅、水深、植生の変化残すなど、極力改修前の自然環境のしぐみを維持することを求めた国の指針です。

※2：太陽電池発電設備や風力発電設備などの大規模な施設整備に関して、周辺景観に配慮すべき点を示しています。

※3：景観法に基づき、良好な景観の保全・形成など景観に配慮したまちづくりを進める自治体のことです。市独自の景観計画を策定することなどができます。

現状の分析
(SWOT分析表)

<p>S/強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしくて豊富な水が、他自治体に比べて安価 ・豊富できれいな水により、企業誘致につながっている（食品・ビール工場など） ・市街地の中心部に、清流千歳川が流れている <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <p>千歳川</p> <p>名水ふれあい公園</p> </div>
<p>W/弱み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳市の水の良さが、あまりアピールされていない
<p>O/機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・注目されている北海道ブランドと良質な水は、ビジネスチャンスになる
<p>T/脅威</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・良質で豊富な水源が海外の標的になる可能性がある ・全国的にソーラーパネルの設置が進んでおり、北海道らしい景観が損なわれる恐れがある

提言 7

市街地の立地や既存の施設などを生かし、観光客も市民も 楽しめ、にぎわう“まちなか”にしましょう

《基本的な考え方1》

空港のにぎわいが中心市街地でもみられるよう、“まちなか”で楽しめることを増やしましょう。

《取組のアイデア》

- 空港から市街地までの無料シャトルバスを、市街地まで延伸する
- 既存の飲食店等がホテル宿泊者を意識した飲食を提供するよう促す（朝食）
- 外国人が夜の観光（飲食など）を楽しめる、集まれるところをつくる⇒「千歳で1泊」から「千歳で2泊」へ

《基本的な考え方2》

市民も観光客も日常的に楽しめる「人のたまり場」を“まちなか”につくりましょう。

《取組のアイデア》

- グリーンベルトでフリーマーケットを継続的に行ったり、常設ではなくても、期間限定で賑わいを生み出すイベントを開催する（青空映画館など）
- タウンプラザにストリートピアノを置く
- グリーンベルトを中心に、周辺に店を増やす
- いろいろな年代がまちなかに集まる機会を増やす※（まちライブラリーと連携し、多様な年代に向けたイベントの開催など）
- ストリートコンサートや夜の飲食イベントを定期的に行う

※市内の若者が中心街の空き物件を借り上げ、音楽やアートに触れられる交流の場を作ろうとしています。（写真を含め北海道新聞の電子版より）



《基本的な考え方3》

おもてなしの気持ちが伝わる工夫とともに、一年を通して「まちあるき」が楽しいと思われる環境をつくりましょう。

《取組のアイデア》

- 千歳駅を降りたら、花や飾りが目に入ってくるようにする
- ステーションプラザに案内所があることが分かるような環境を整える
- ステーションプラザにあるスクリーンに、千歳を紹介した動画を流す
- JR千歳駅を降りた人に、周辺を歩いてみようと思わせる工夫（記念撮影できる場所づくり、スタンプラリーなど）をする
- まちなかの除雪体制をさらに充実させ、歩きやすくする
- JR千歳駅から仲の橋通りまでの歩道のロードヒーティングを進める
- 看板の落下事故が起きないように未然防止に取り組む（看板の規制も含め）

《基本的な考え方4》

“まちなか”のにぎわいづくりに向け、起業する人たちを応援しましょう。

《取組のアイデア》

- ・ 起業支援に関する制度、セミナーの開催に関する情報を積極的に情報発信する
- ・ 空き店舗の活用（宿泊など観光に活かす、低賃料で貸し出せるよう再開発して援助する）
- ・ 「1日店舗」や「チャレンジショップ」※など気軽にできる企画をする
- ・ ニューサンロードを中心とした再開発で各店舗を集まさせ、モール風な商店街をつくる

※札幌の西武百貨店跡地の一角に、期間限定でオープンした小さな飲食店舗を連ねたバル街（コバルドオリ）では、チャレンジショップも設置していました。



コバルドオリホームページより

現状の分析 (SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新千歳空港から近いほか、港湾地区（苫小牧）や札幌への交通の利便性が高い ・ 千歳駅周辺に飲食店、宿泊施設が増えつつある ・ 市内で外国人観光客が増えている ・ 千歳駅の中心部がコンパクトにまとまっており、平坦で歩きやすい
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・ かつて賑わっていた場所が、暗く、淋しい ・ 空き店舗が目につく（地代、賃料が高い） ・ 空港には人は来るが、まちの中心地にまでは来ない ・ 若い人が集う場所が少ない
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家など既存の施設を、訪日外国人等の宿泊に利用するケースが全国的に増えている ・ 起業を応援する制度などが増えている ・ 観光客の増加により、経済活動の向上、増加が見込める ・ まちあるきを楽しむ人が増えている
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかにある老朽化した看板などが風で飛ばされたり、落下するなど、事故につながっている

提言 8

インフラや交通網も含め居住環境において、住民の安心・安全、快適性、利便性、公平性の向上をめざしましょう

《基本的な考え方1》

市民がいつまでも安心して生活できるよう、住環境の向上をめざしましょう。

《取組のアイデア》

- 地域と連携して夜間に暗い箇所がないかを把握し、防犯灯の設置を促進していく
- 市民が携帯電話を通して、写真で市に通報できるアプリを導入する（補修が必要な道路、夜間暗い道など）
- 空き家の固定資産税を高くするなど、空き家を減らす対策をとる
- インフラを維持するための人材を育成する（建設機械、除雪車のオペレーターや自然災害が発生した場合の建設従事者）

《基本的な考え方2》

自然災害や住宅街への野生動物の侵入による被害を未然に防ぐとともに、市民一人一人の災害対応能力を高めましょう。

《取組のアイデア》

- 森林の整理（倒木による送電線への影響を回避したり、野生動物が道路や住宅街に近付かないよう、道路付近の樹木を整理する）
- 停電を含め災害時に自宅に対応できる知識の普及（アウトドア技術の普及など）

《基本的な考え方3》

災害時の避難経路の確保や、誰もが快適に利用できる交通網を整備しましょう。

《取組のアイデア》

- 向陽台の2次路線（災害時の避難経路）の整備（向陽台から道道支笏湖公園線を結ぶ道路の整備）
- 市民病院や空港への経路として、千歳駅を經由しないバス路線を設定する（經由する場合は乗換えのない便の設定）
- 「BRT（バス・ラピッド・トランジット）※」の導入の検討

※「バス高速輸送システム」とも言われ、一般車両用の道路と区切った「バス専用レーン」や、完全に分離した「バス専用道路」を設けてバスを運行させるシステムとして、渋滞に巻き込まれず、高速で時間通りに目的地へ到着できるという利点があります。

また、バスを連結させることで一度に大量輸送でき、現在では神戸市や岐阜市など、世界195以上の都市で導入されています。



ビジネス+IT（2017.7.25）より

現状の分析
(SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖を含む国立公園などの自然に囲まれており、自然と都市との調和が図られている ・1人あたりの都市公園面積が広いなど住環境に恵まれている ・下水道普及率が高く、衛生環境が良い ・人口の増加により、新しい住宅地が増えている ・広域的な視点では、新千歳空港を含め交通の利便性が高く、支笏湖にも行きやすい
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によっては、住宅地に空き地が増えたり、廃屋がめだつようになり、防犯や衛生環境に留意する必要がある ・地域によって防犯灯の設置状況に差がある(防犯灯の設置に積極的な地域とそうではない地域がある) ・向陽台～空港、長都・みどり台～市民病院など、バスの路線によっては、空港や市民病院へ行くのが不便である ・向陽台と市街地をつなぐ道が1本しかない ・災害で停電になった時、自宅の対処や備えについて分からず困った
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境に「安心・安全」を求める人が増えている ・高齢化により、公共交通を重視する人が増えている
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と生活圏が近接していることにより、野生動物による被害が全国的に増えている ・道路の老朽化が進み、補修などの対応が遅れ気味である ・近年、噴火や台風など自然災害が増えている ・地震の発生が増えているなか、活断層帯の影響を受けることへの不安が高まっている ・災害発生時の対応や除雪などで重要な役割を担う建設業者の労働力不足が進んでいる

提言
9

子どもから大人まで、福祉教育に接する機会を増やし、豊かな人間性を育みましょう

《基本的な考え方1》

福祉の心や知識を子ども達に広め、豊かな人間性を育みましょう。

《取組のアイデア》

- ・小中学校などで行っている車イス体験等の福祉体験を、全市的に継続性を持たせて推進する
- ・世代間の交流を増やし、多様な知識や経験を学ぶ

《基本的な考え方2》

持続した福祉教育を進めるため、人材の確保、育成に取り組みましょう。

《取組のアイデア》

- ・福祉・介護・スポーツなど専門分野を含めた指導者（リーダー）を養成する機会の充実
- ・外国人材の活用（介護、国際化に向けた多言語教育など）

現状の分析
(SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用できるスポーツ施設や文化施設はたくさんある ・福祉に関して一部条例整備が進みつつある（手話言語条例※など） <p>※千歳市は「手話が言語である」という認識のもと、手話に対する理解を広げ、手話を使用しやすい環境づくりを進めるため「千歳市手話言語条例」を制定しています。</p>
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや福祉関係の指導者や後継者が不足している
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人も含めた専門職の人材育成が求められている ・外国人材の活用が進んでいる
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が増加することによって、コミュニケーション不足によるトラブルの増加が懸念されている ・今後福祉サービスを必要とする外国人が増えてくる

提言
10

市民一人一人の知識、経験、特性を生かし、地域に貢献
できる活動を促し、広げていきましょう

《基本的な考え方1》

福祉や教育など、市民団体の活動がより充実するような、活動拠点を整備
しましょう。

《取組のアイデア》

- ・福祉や教育などの市民活動団体等がより気軽に集え、相談できる場所として、市民活動施設など既存施設の機能を強化(駐車場や荷物収納スペースや団体交流スペースの確保、相談機能の強化など)するとともに、各種団体等の相互の交流を促進する。

《基本的な考え方2》

転入者や高齢者などが持つ様々な知識や技術を、地域づくりに生かしましょう。

《取組のアイデア》

- ・転勤してくる人たちの知識や技術を地域づくりに生かしていくため、活動の参加に必要な情報を得やすいようにする(転入時に市内活動団体等に関する情報を提供したり、気軽に相談できる体制を充実させるなど)
- ・子どもと高齢者が一緒に集えるイベントを開催する(孫と学べるスマホ教室、着物教室など)

現状の分析
(SWOT分析表)

S/強み	・福祉や教育の団体が多数登録されており、また、多くのイベントが開催されている ・転勤してくる人たちは、千歳とは異なる様々な知識や技術、経験を持っている人が多い
W/弱み	・福祉団体と教育団体が別々に存在し、相互の交流が薄く、また、ボランティア団体が自主的に運営する連絡協議会が存在しないため、つながりや連携の弱さがある
O/機会	・福祉と教育の活動が広がることで、退職者や外国人が活躍する場が増え、地域活動の担い手にもなっていく可能性がある
T/脅威	・個人主義の風潮が強くなり、隣人とのつながりが薄くなることにより、情報を得られない人がこれからも多くなることが予測されている

提言 11

市民同士がつながり、必要な情報が必要な人に届くように しましょう

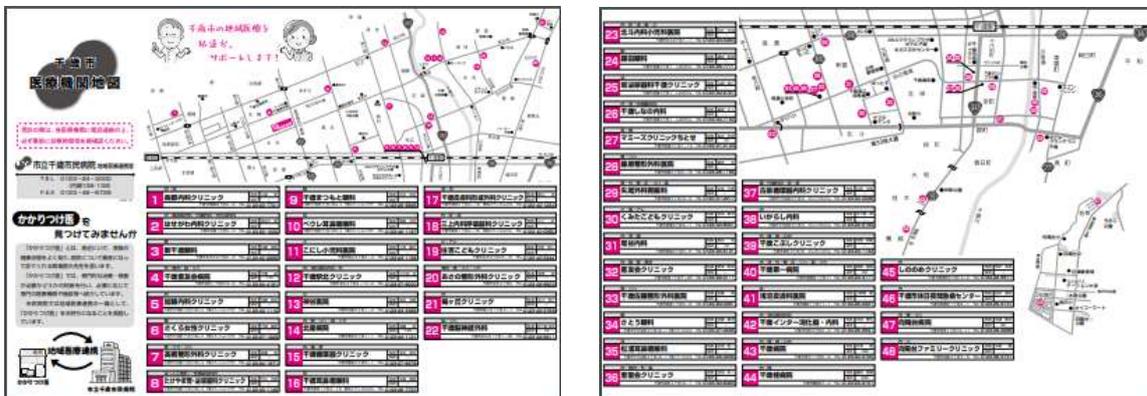
《基本的な考え方1》

必要な人に必要な情報が伝わるよう、多様な情報発信環境を整備しましょう。

《取組のアイデア》

- ・千歳独自の地域FM放送（ラジオ）を行う（事業主体を含め、実現方法を検討する）
- ・公立千歳科学技術大学と連携した情報提供ツールの開発（外国人にも対応できる翻訳機能が入った安否確認ツール、災害時にも活用できる双方向の送受信が可能なツールなど）、開発したツールの普及
- ・市外の方や引っ越し後間もない方にも分かるよう、公共施設を示す案内看板（サイン）を積極的に設置する
- ・市民病院が作成している病院マップ※をより一層周知する（ダウンロードできる場所をふやす、見つけやすくするなど）
- ・公立千歳科学技術大学と連携した、ボランティアに協力したい人、協力を受けたい人とをむすぶ「アプリ」の開発
- ・図書館から多様な情報を発信する（館内で開催するイベント、ホームページ、掲示板、ラックなどを通して）

※千歳市民病院の地域医療連携課のサイトに掲載されているほか、印刷物は市民病院に置かれています。



千歳市民病院のホームページより

《基本的な考え方2》

目や耳から情報を得ることが難しい人たちに、正しく情報を伝える手段を普及させましょう。

《取組のアイデア》

- ・スマートフォンやタブレットなどの活用
- ・子どもから大人まで簡単な手話の普及
- ・コミュニケーションボード※の普及

※言葉で伝えることができない、あるいは難しい方とコミュニケーションをとるために作成されたものです。お店や交通機関のほか、避難場所などでも使われています。



横浜市社会福祉協議会障害者支援センターのホームページより

現状の分析 (SWOT分析表)

S/強み	<ul style="list-style-type: none"> ・市から市民への情報伝達ツールはたくさんある ・市民にとって身近で親しみやすい図書館がある
W/弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な人に、必要な情報が伝わっていない（どんなに情報発信しても、行き渡らない人がいる） ・転出入が多い（常時、転入者に市の情報を提供していく必要がある）
O/機会	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なツールを使って、情報を発信することが可能になってきている
T/脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障がい者、外国人などが情報弱者になることで、孤立する恐れがある

3.資料編

< 諮問書 >

千 総 計 第 19 号
平成 31 年 2 月 27 日

千歳市都市経営会議
座長 橋本 峰 宏 様

千歳市長 山口 幸太郎



諮 問 書

平成 33 年度を始期とする「千歳市第 7 期総合計画」の策定に当たり、次の事項について貴会議の意見を伺います。

諮問テーマ：

私たちが目指すまちづくり～これからのまちづくりの課題と目標～

諮問の趣旨：

道内で最も若く、人口増加を続ける本市の勢いを持続するとともに、さらなる発展を目指すことができるよう、「千歳市第 7 期総合計画」の策定に当たり、市民の視点から、本市が目指すべきまちづくりの目標などについてご検討いただきたく、諮問いたします。

提言の時期：

平成 31 年 10 月を目途にご提言願います。

<委員名簿>

(敬称略、部会ごとに五十音順)

No.	氏名	ふりがな	部会	備考(役職等)
1	伊藤 政枝	いとう まさえ	産業	
2	浦 時雄	うら ときお		
3	菊池 哲郎	きくち てつろう		
4	鈴木 毅裕	すずき たけひろ		副座長
5	高木 猛雄	たかぎ たけお		
6	村田 岳史	むらた たかし		
7	伊藤 文泰	いとう ふみやす	安全安心・環境	
8	大高 考雄	おおたか としお		副座長
9	越智 伊素子	おち いそこ		
10	高口 慎太郎	こうぐち しんたろう		
11	佐藤 知子	さとう ともこ		
12	末村 恭子	すえむら きょうこ		
13	市村 一郎	いちむら いちろう	都市づくり	
14	榎本 紀允	えのもと のりまさ		副座長
15	小笠原 航	おがさわら わたる		
16	小野寺 真澄	おのでら ますみ		
17	菊地 弘	きくち ひろし		
18	橋本 峰宏	はしもと みねひろ		座長
19	大寺 勉	おおてら つとむ	福祉・教育	
20	熊木 史幸	くまき ふみゆき		
21	谷口 聖	たにぐち あきら		
22	中村 秀子	なかむら ひでこ		副座長
23	林 みよ子	はやし みよこ		
24	元沢 季子	もとざわ ひでこ		